



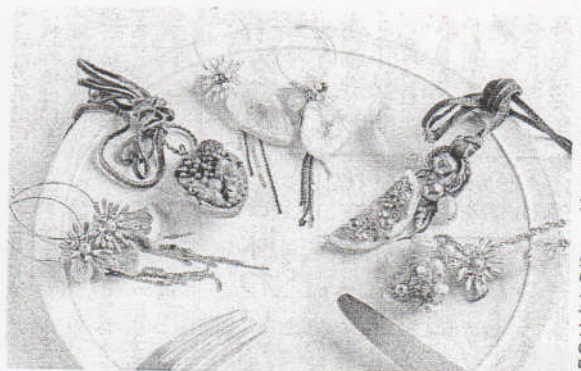
フリーズドライ加工をしたイチゴに樹脂コーティングするデザイナーの藤田絵夢さん

旬

摘みアクセ

イチゴのピアスやホオズキのかんざしなど、生の果物や植物を使ったアクセサリーがじわり広がっている。生素材だけに色や形は時間と共に変化していくが、それもまた一興。今しか味わえない「旬」の魅力が女性たちを引き付けている。

生の果物・草花を加工



バナナやオレンジをパールなどで飾り付けたアクセサリーが、女性を引き付けている

(30)は、数カ月前に購入したイチゴのピアスが、お気に入りだ。生のイチゴの身をく

りぬいてつぶし、乾燥させた後に、樹脂でコーティングしており価格は4500円。「周りの誰も持っていないので、身につけて出かけたときはみんなが驚いて見る」と笑う。知り合いの男性からは「プレゼント用に購入したい」と言われ、サイトを紹介したこともある。購入したのはウェブショップのナチュラルリッチ (<http://www.naturlich.net>)。「使っているうちに少しずつ色合いが変化して味が出てくるのも楽しい」。次はサクラノボやマスカットの登場を期待する。花や果物など生の素材

をピアスやネックレスなどのアクセサリーに仕立てるのはデザイナーの藤田絵夢さん(31)。3年前から花を題材にしたアクセサリー作りに取り組んできたが、最近、果物にたどり着いた。「季節感を楽しめる素材として果物は花の次に女性に人気」という。フリーズドライのバナナやイチゴ、キウイ、オレンジを樹脂でコーティングし、パールなどで飾りつける。セレクトショップのほか、ポルトレ(東京・杉並)のウェブサイトを「ウィッシュリア」(<http://www.wisharia.jp>)

移ろう四季肌で味わう



色や形の変化は生素材特有の楽しみ。ナチュラルリッチのイチゴのイヤリング

販売している。<http://jp/index.html>でも

ヒヤシンスの花を使ったときには「香りが一日中楽しめる好評だった」。ホオズキでかんざしを作ったこともある。11月30日には雑貨店「フクヤ」(東京・世田谷)で開催する。料金は3000円。種類によっては一日しか持たない場合もあるが「葉一枚を身につけているだけでもテンションは上がるもの。今日は何にしよかと庭の植物を眺めるのも楽しいくなるはず」だ。

都内に住む手島倫子さん(31)が最近ハマっているのは生の草花を使ったアクセサリー作り。今まで経験したもののつくりとは魅力が異なる。やはりそれはそれほど難しくないが、今この瞬間をとて大事にしている感じにひかれた。昨年ワークショップに初めて参加してみせられ、今ではハンドメイド好きの仲間を集めて独自のワークショップを開くほどだ。生の草花を身につける機会はウェディングなど特別な時に限られると思いがち。しかし高島さんは「春になるとシロツメクサを編んでネックレスを作ったように、そのときの旬を気軽に楽しんでほしい」という。「今だけ」という特別感が他にない魅力として女性たちをとりこにしているようだ。

指導するのはフロアリストの高島美月さん(31)。草花のフレッシュな魅力を身近に楽しんでもほしいと、昨年6月から各地でワークショップを開催している。「同じ状態が続くことを望むならフリスチックの方が好ましい。むしろ今しか身につけられないことを楽しんでほしい」という。春のワークショップで

(中村菜都子)